

# 叱られたフィリポ

ヨハネによる福音書 14 : 1 - 14



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年5月7日

復活節第5主日

上野聖ヨハネ教会にて

今日は、福音書の中に登場した 12 弟子の一人、フィリポについてお話しします。使徒言行録にもフィリポが出て来ますが、それとは別人です。フィリポは、ペテロ、ヨハネ、アンデレ、トマスといった弟子たちと比べると印象が薄いかもしれませんが、やはり重要な人物です。出身はガリラヤ湖の北側の町、ベトサイダです。

フィリポとイエスの出会いはこうです。

「その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、『わたしに従いなさい』と言われた。」

ヨハネ 1:43

イエスはフィリポを、自分の弟子となるべき者として見出されました。そして自分に従ってくるように言われました。フィリポはイエスに従いました。これがフィリポの新しい人生の始まりでした。彼は、イエスが神から遣わされた方であると信じて、深く慕っていました。それで彼はすぐその後、自分の友人のナタナエルをイエスのところに連れてきて引き合わせます。ナタナエルもイエスを信じて弟子となりました。

また、こんなことがありました。非常に大勢の群衆がイエスの後を追って山にまで登って来ました。イエスはそれを見て、人々の空腹と疲れを心配されたのでしょう、フィリポにこう言

われました。

「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」ヨハネ 6:5

フィリポはとても困惑したあげく、こう言いました。

「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」6:7

この後、少年の持っていた五つのパンと二匹の魚をイエスが祝福されて、皆がお腹を満たされるという経験をします。フィリポは非常に驚いた。またうれしかったと思います。けれどもそれだけではなかったのではないのでしょうか。疲れた人、飢えた人たちのために、自分に何ができるかを考えてそれを実行する者になりたい。フィリポはそう真剣に思った気がします。

それから 2、3 年が過ぎました。過越の祭が近づいたとき、イエスは弟子たちとともにエルサレムに入られました。大勢の群衆はなつめやしの枝を手に手に持って、イエスを歓呼して迎えました。過越の祭の礼拝をするために、大勢の人たちがエルサレムに上ってきていましたが、その中に何人かのギリシャ人がいました。そのギリシャ人たちがフィリポのもとにやって来てこう言ったのです。

「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」

ヨハネ 12:21

フィリポはアンデレにそのことを話し、アンデレと一緒にイエスのところに行ってそれを伝えました。するとイエスは二人こうに言われました。

「人の子が栄光を受ける時が来た。はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」12:23-24

フィリポは衝撃を受けました。イエスは死なれる。その時が来た。イエス是一粒の麦として地に落ちて死なれる。自分がギリシャ人の来訪を伝えたことでそれがはっきりしてしまった。

後から解釈すれば、ギリシャ人、つまり外国人がイエスのもとに来たというのは、これからは神の救いがユダヤ人、イスラエルの範囲を超えて外国の人々に広がっていくということのしるしです。イエスの死をとおして、救いは世界に広がっていくのです。

けれどもフィリポはそんなことまで考えなかったでしょう。彼は、イエスの死なれる時が来たこと、しかもイエスご自身がそれをはっきり言われたことに衝撃を受けるとともに、その続きにイエスが言われたことを心に深くとめたと思います。

「わたしに仕えようとする者は、わたしに従いなさい。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。」12:26

「わたしに従いなさい」。あの、最初にイエスが自分に言われた言葉、自分の原点となった言葉「わたしに従いなさい」をもう一度彼はこの時に聞きました。

「わたしに仕えようとする者は、わたしに従いなさい。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。」

イエスのおられるところに自分もいたい。自分はどこまでもイエスに従っていこう。

それから数日後の木曜日の夜、弟子たちはイエスと最後の食卓を囲むことになりました。食事の前にイエスは、弟子たちの足を洗ってくださいました（ヨハネ 13:3-5）。イエスの決意と愛が、フィリポの心と体に浸透しました。

その時、イエスは弟子たちに言われました。今日の箇所です。  
「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。……行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」 14:1-3

けれども、他の弟子たちもそうですが、フィリポはイエスが去って行かれることの悲しみと不安を拭い去ることができませ

ん。これまでただイエスを信じイエスを頼って神さまをわかっているつもりでいた。しかしイエスがおられなくなったら、何を頼ったらよいのか。神さまをどうやって信じていけるだろうか。思わずフィリポはイエスに言いました。

「主よ、わたしたちに御父をお示おんちちしてください。そうすれば満足できます」14:8

イエスはフィリポに言われました。

「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分か  
っていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、

『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。」14:9

フィリポ、こんなに長い間わたしがあなたがたと一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。フィリポは叱られました。イエスをがっかりさせました。けれどもイエスはフィリポを見放されたわけではありません。彼を愛しておられます。フィリポの曖昧なところ、不安なところをイエスは知って、もっとも大切な一言を言われます。

「わたしを見た者は、父を見たのだ」

神が分からなくなるのではないかと心配する必要はない。あなたはわたしを見た。わたしを見てきた。わたしを信じて従ってきた。それで十分だ。わたしを見た以上は父を、神を見たのだから。わたしの中にあなたは神を見てきたし、これからも見

つづける。

今、フィリポとともに知りましょう。イエス・キリストから離れて、イエス・キリストとは別なところに神を求めないように。イエスのうちにこそ神がおられる。イエスをとおして神を知る。イエスを見たのならわたしたちは神を見たのです。イエスをもっと知りましょう。イエスを知ったなら、神を知ったのです。

フィリポはイエスに叱られ諭されて、半分納得し、でも半分はまだ確信できなかったかもしれません。今はそれでよいのです。イエスが後に必ずフィリポの心の目を開いてくださるのですから。このフィリポのためにも、イエスは言われました。

**「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」**

イエスはこのことをわたしたちにも言ってくださいます。

「あなたがたをわたしのもとに迎える」

「迎える」というのは強い言葉で、「引き取る」とも訳せます。迷うあなたをわたしが迎える。心配するあなたがたをわたしが引き寄せ引き取る。この約束がフィリポとわたしたちを守っています。

フィリポと同じように信じ、従い、迷い、叱られ、諭されて、わたしたちはイエスの弟子として成長していきます。そのわたしたちを迎え引き寄せて、イエスはご自分のおられる所に必ずおらせてくださるのです。

祈ります。

主イエスさま、あなたをはっきりと見させてください。あなたのうちに神を見させ、あなたを通して神を示してください。あなたが約束されたように、わたしたちをあなたとともに迎え、あなたのもとにおらせてください。アーメン